

鍛えられた宿泊学習！



小学校6年間を見てみると、節目、節目に大きな行事、即ち、子ども達にとって、忘れられない思い出深い行事があります。その一つに、5年生の時に実施されることが多い、“宿泊学習”があります。10月7～8日にかけて、1泊まりで黒髪少年自然の家へ。黒髪山登山、フィールドワーク、星空観察、キーホルダー作成と、普段学校では味わえない活動ばかり。まさに、“教科書に書いてあることだけじゃわからない大切な物がきっとここにある”そんな体験を味わえた2日間でした。

改めて、その目的は、

- ①自然に親しみ、自然を愛する心の育成
 - ②心と体を鍛え、自分自身の可能性を見出す
 - ③共同生活の意義を理解し、楽しさを味わう
- 例年、この行事を経た5年生は、ぐんと成長し逞しさを増していきます。期待しましょう、今年の5年生にも。これから楽しみに！

宿泊学習 IN 黒髪 アラカルト



褒め方しかり方

「早起きは三文の徳」という諺があります。5時前に目が覚め、TVのスイッチを入れたら、TV寺子屋というご長寿番組が放送されていました。寺子屋という名前から推察できるかと思いますが、子育てのノウハウが詰まった番組です。毎回講師が替わるのも楽しみなのですが、その時の講師は、脳科学者の中野信子さんでした。様々な番組で活躍されている方で、脳科学の視点からの指摘に、“なるほど！”と頷かされることもしばしば。その日のテーマに沿い、親（大人）として、このような言い回しは適切か？と問われる場面がありました。それは、子どもが100点を取ったときの言葉かけ。

「いい点数採れたね！」これは、「○」or「×」？

もし、この言葉かけが続けば、子どもは、簡単に100点が採れる問題ばかり選ぶ傾向になる。

「工夫したね」「ここ、努力したね！」

そう応えると、できる・できないという発想がすり込まれず、難しい問題にもチャレンジする姿が現れるとか…。 “頭がいいね” って褒められた子は、頭の悪い自分が見せられないと思い、ウソをつくようになるとも。いやあ、奥深い話しです。できる・できないは別として、この話、知っていて損はありませんよね(*^o^*)。

～地域の伝統守り隊～

去る10月9日(土)、高志神社で200年以上続く県の重要文化財「高志(たかし)狂言」が奉納されました。その中で、主人の留守中に家来の2人がこっそり家の砂糖を食べてしまう「部須(ぶす)」という演目を、6年生の渡瀬さん、中野さん、大谷さんが見事に披露してくれました。

本当にありがとう！そして立派でした！(*^o^*)



